

Rihoの ドイツ便り

No.65



自慢のピラミッドガラスの
ソーラーパネルと、デンツ社長

ハノーファー郊外に「アルファソーラー」というソーラーモジュール製造の会社があります。社長のマーティン・デンツはエンジニアで、1993年ソーラーインバータの販売会社を立ち上げ、2001年よりスウェーデンの会社と共同でスウェーデンで製造を始めました。

2009年よりハノーファーに工場を新設し、モジュール製造を開始。2011年には最新型の設備を入れ、生産量を倍の年間40メガワット分を作っています。太陽光発電は南ドイツで盛んなせいか、同社は北ドイツのニーダーザクセン州で業界唯一となります。

2000年の再生可能エネルギー法により、自然エネルギーの固定価格買取が法律で保証されていますが、稼働年により価格は下がっていきます。特に太陽光発電による電力の買取価格は最近

は数ヶ月単位で下げられており、そのたびに駆け込み需要があるため、最近は一時的に需要があるといえます。太陽光については20年間価格は保証されるため、日照条件にもよりますが、12年から13年ぐらいで設備費が回収できます。

顧客は法人から個人客までいろいろ。同社の売りは、なんといっても「メイド・イン・ジャーマニー」であること。多くの会社が海外に拠点を移す中、ドイツ製の質の高い商品を製造しています。設置やメンテナンスなども手がけていて、現在100人の社員がいます。

特筆すべきは、小さなピラミッド型のガラスが敷き詰められたソーラーパネル。同社のオリジナル商品で、2006年より販売を始めました。太陽光を最適な角度で捕らえるため、通常より5%増して発電できます。屋根の角度や日照時間など不利な条件でも、カバーできるとあって人気です。

先日の一般開放の日、工場内を見学しました。世界初という最新型の機械に、清潔な工場。子どもたちは中庭でソーラーパネルを載せた舟を作りました。日があたると船上のプロペラが回り、船が前に進むのです。大人も子どもも最新技術の素晴らしさを実感した一日でした。

会社のホームページ（ドイツ語） <http://www.alfasolar.de/>

田口理穂 ごみかんどイツ特派員

ドイツ便り



10月に明は5歳になります。毎週土曜日パパと水泳教室に通っていますが、最近金曜日にサッカーを始めました。お友達のエレンちゃんとバレー教室に行ったこともあったけれど、泣いて嫌がりました。やっぱりサッカーの方がいいみたい。

11月から歌や踊り、簡単な楽器など音楽全般を試す2年間のコースに通い始めるほか、週一回幼稚園で音楽教室があり、毎週火曜日は日本人の子どもが集まっています。そのうえピアノを習いたいというし、そろそろひらがなも教えなければならぬ。本人がやりたがっているけど（ひらがな以外）、どこまで続くことか…。

ドイツでもお稽古事はいろいろありますが、日本ほど熱心ではないようで、水泳やサッカーなどひとつだけというのが一般的のようです。